

災害派遣

平成三十年七月豪雨災害派遣

北海道胆振東部地震災害派遣



国道486号線



災害廃棄物撤去 (東方施設支援群)



車両点検及び整備
(第102施設直接支援大隊)



出発



現地調達
(第341会計隊)



呉市での入浴支援 (第301高射
直接支援中隊 第1直接支援小隊)



道路啓開 (東方施設支援群)



災害廃棄物撤去 (東方施設支援群)

古河駐屯地各部隊は、平成三十年七月豪雨災害に伴い、平成三十年七月十七日から八月十日までの間、岡山県及び広島県に対して災害派遣活動を実施した。各部隊は、補給品の積載や器材等の積載、長距離移動に備えての車両点検を整齊と実施した。派遣部隊である「東方施設支援群」に編成された、第一施設団本部及び付隊第一〇一施設器材隊第三〇一ダンプ車両中隊・第一〇二施設直接支援大隊・第三四一会計隊、総勢五十四名は岡山県倉敷市へ、「東部方面後方支援隊」へ編成された、第三〇一高射直接支援中隊第一直接支援小隊二名は広島県呉市へ移動した。現地では、多くの災害廃棄物が集積され、道路の交通にも影響を及ぼしていた。国道四八六号線付近の災害廃棄物撤去、及び真備東中学校の災害廃棄物撤去、井原線高架橋下の道路啓開等を実施した。また、広島県では呉ポートピアパークで入浴支援の任務にあたったのち、任務を完了し帰隊した。



被災現場



移動 (フェリー)



積載



作戦会議



浚渫作業



夜間作業



土砂運搬



道路啓開

古河駐屯地各部隊は、平成三十年北海道胆振東部地震に伴い、平成三十年九月六日から九月十九日までの間、北海道での災害派遣活動を実施した。各部隊は、積載等を完了した後、フェリーで北海道に向かうべく新潟港等にむけ出発した。苫小牧港に到着した、第一施設団本部及び付隊・第一〇一施設器材隊・第三〇一ダンプ車両中隊・第一〇二施設直接支援大隊、総勢三十七名は、「東方施設支援隊」に編成され北海道厚真町にて活動を開始した。現地では、情報収集、関係機関との調整及び道路偵察等を行ったのち、人力・機械力を駆使し、大規模な土砂崩れが発生した厚真ダムに通じる道路に対し、道路啓開作業及び土砂運搬を昼夜を問わず実施した。また、高丘地区では、浚渫作業(河川などの底面を浚って土砂などを取り去る)、幌内地区や富里地区でも土砂積載運搬を行った。派遣部隊は任務を完了し、無事帰隊した。

国際貢献活動



ジブチ災害対処能力強化支援



東ティモール能力構築支援

八月二十八日から九月二十八までの間、第一〇二施設直接支援大隊、川崎二曹（施設機械整備）、第一〇一施設器材隊、田村三曹（測量）、第三〇一ダンプ車両中隊、脇本二曹（通訳）、第一施設団本部付隊、木村三曹（通訳）、計四名が「日米豪共同東ティモール民主共和国能力構築支援」へ、九月二十一日から十二月十六日までの間、第一〇一施設器材隊、本森一尉（教務幹部）、上野二曹（助教）、松村二曹（助教）、計三名が「ジブチ災害対処能力強化支援」にそれぞれ参加し、通訳を介して車両整備や測量に関する教育等を実施した。

職場体験学習



訓練見学



実技体験（救急法）

七月二十五日から八月二十三日までの間、中学校が行う職場体験学習の支援を十三校七十名に對し行った。生徒達は、緊張した面持ちであったが、駐屯地施設見学や部隊の訓練見学、自衛隊に関する説明等が進み、担当した隊員達と接するうちに、徐々に中学生達の表情も和らいできた。実技体験は基本教練や救急法を体験し、初めは戸惑っていたが、全員熱心に取り組み、見違えるほど上達した。参加した生徒からは、「自衛隊に興味をもった。訓練を近くでみて迫力があつた。就職してみたい。」等の感想等がよせられた。

定年退官者の紹介



第1施設団本部
早川 3佐
12月24日付



第1施設団本部
矢田 1佐
1月26日付

転入部隊長等の紹介



第102施設直接支援大隊
大隊長
佐藤 3佐



関東補給処古河支処
施設部長
伊藤 1佐

八月一日付で転入部隊長等を含め十八名の隊員が、新戦力として古河駐屯地に転入した。

新配置隊員の紹介

 第101施設器材隊 天神林 1士	 第101施設器材隊 白鳥 1士	 第101施設器材隊 根本 2士	 第101施設器材隊 深田 2士	 第101施設器材隊 小山 1士	 第101施設器材隊 横江 2士	 第101施設器材隊 森 2士	 第101施設器材隊 羽田 1士	 第1施設団本部付隊 湯浅 1士
 第102施設直接支援大隊 曾根 1士	 関東補給処古河支処 岡田 2士	 関東補給処古河支処 小暮 1士	 第301ダンプ車両中隊 佐藤 2士	 第301ダンプ車両中隊 木村 2士	 第301ダンプ車両中隊 及川 2士	 第301ダンプ車両中隊 安杖 2士	 第301ダンプ車両中隊 中井 1士	 第301ダンプ車両中隊 栗林 1士
 第320基地通信中隊 樋川 2士	 第320基地通信中隊 武田 2士	 第341会計隊 齊藤 2士	 第341会計隊 石川 2士	 第337高射中隊 大嶽 2士	 第337高射中隊 慶野 2士	 第102施設直接支援大隊 滝澤 2士	 第102施設直接支援大隊 濱田 2士	

祝！
配属

関東補給処古河支処



整備所天幕の構築



警戒中の隊員

九月三日から七日までの間、第一回関東補給処統制訓練(第二回支処B A S E訓練)を担当、実施した。

本訓練は、関東補給処各部・各支処から多くの若手隊員が参加し、ライナープレートを使用した警戒施設(監視用掩体)の構築、車両の偽装、整備所天幕の構築等を演練して基礎的戦闘能力を向上させるとともに、分隊長要員の実員指揮・指導能力向上を図るもので、第二回支処B A S E訓練に併せ、古河駐屯地で実施した。参加した陸士隊員は「分隊長の指導により隊員同士連携することができ、自身の練度向上を実感している」と感想を語った。

五日に副処長、六日に処長による訓練視察を受け、猛暑の中訓練に励む隊員を激励された。



野外整備作業 (9 2式地雷原処理車)



補給センターにおける支援活動

八月十二日から二十六日までの間、平成三十年度富士総合火力演習における補給整備支援を実施した。

支援期間中、現地(富士地区)に隊員を派遣するとともに、古河地区における支援体制を確立維持し、部隊からの要求に即応した補給整備支援を実施して、演習参加部隊の円滑な任務遂行に寄与した。

富士地区においては、前方支援地域での活動を念頭に置いた補給整備支援について演練した他、本演習支援の場を活用した補給品の請求・払出し業務及び野整備部隊に若手隊員を派遣して野外における整備能力の練度向上を図った。

事前集積品による迅速な部品補給の他、霞ヶ浦への部品輸送六回計三十三品目三百三十三点の部品を補給して本演習の成功に寄与した。

古河駐屯地業務隊



外来宿舎歩道整備



1号庁舎女子シャワー室等整備



備蓄品交付(北海道胆振東部地震)



給油支援(平成三十年七月豪雨災害)

七月、平成三十年七月豪雨災害に伴う災害派遣部隊に対し、糧食千五百五十七食、燃料七千八百五十三L、飲料水二L×千二百二十二本、革手袋四百組、防塵眼鏡・マスク各二千八百個、簡易テント・トイレ各五十個、尿処理剤五セットの交付等。九月、北海道胆振東部地震に伴う災害派遣部隊に対し携行食七百四十四食、軽油二千七百七十L、飲料水二L×千二百九十本、簡易テント・トイレ等施設物品五品目計二千六百一個、ヘッドライト等通信物品二品目計千二百個、下衣・手袋等被服物品九品目計二千個の交付及び四十四名の臨時健康診断を実施、派遣部隊の災害派遣支援を実施した。

2 四半期駐屯地施設の整備として、七月に一号庁舎女子シャワー室等整備、第二回樹木害虫駆除作業等、二十三件。八月、外来宿舎歩道整備、直直整備工場床補修等、二十一件。九月受水槽補修、ポイラー性能検査等、二十六件の保守・補修作業等を実施した。

特に七月一号庁舎女子シャワー室整備は六月実施した女子トイレ・更衣室の整備に接続して実施、シャワー等の設置を完了し一連の作業を完成、女性活躍推進の基盤整備を図った。また、八月外来宿舎整備は通行の利便性を図るとともに、動線を誘導し隣接する女性隊舎への誤進入防止を行い、生活・勤務環境の改善を実施した。

七月、平成三十年七月豪雨災害に伴う災害派遣部隊に対し、糧食千五百五十七食、燃料七千八百五十三L、飲料水二L×千二百二十二本、革手袋四百組、防塵眼鏡・マスク各二千八百個、簡易テント・トイレ各五十個、尿処理剤五セットの交付等。九月、北海道胆振東部地震に伴う災害派遣部隊に対し携行食七百四十四食、軽油二千七百七十L、飲料水二L×千二百九十本、簡易テント・トイレ等施設物品五品目計二千六百一個、ヘッドライト等通信物品二品目計千二百個、下衣・手袋等被服物品九品目計二千個の交付及び四十四名の臨時健康診断を実施、派遣部隊の災害派遣支援を実施した。

第101施設器材隊



北海道幌厚ダム地区



北海道厚真町富里地区



災害廃棄物処理作業



岡山県倉敷市厚真町

第一〇一施設器材隊は、七月に発生した、平成三十年七月豪雨災害及び九月に発生した北海道胆振地震災害における災害派遣に出動した。

平成三十年七月豪雨では、器材隊長鑑塚二佐以下二十八名が派遣され、東方施設群(第五施設群長)に配属された。

岡山県倉敷市真備町において、水害により発生した災害廃棄物処理作業を実施した。連日、三十五度を越える猛暑の中、全隊員は黙々と任務を遂行して地域の国道沿いは元の姿を取り戻した。

また、北海道胆振東部を震源とした地震では、発生当日の九月六日及び翌七日に器材隊から架橋中隊長青木一尉以下二十八名が派遣され、東方施設支援隊(第四施設群長)に配属された。

北海道勇払郡厚真町富里地区及び幌ダム付近道路において、流出した土砂の撤去に従事した。

両派遣共に、地域の復興と安定に寄与し、任務を完了した。

第一〇一施設器材隊は、七月に発生した、平成三十年七月豪雨災害及び九月に発生した北海道胆振地震災害における災害派遣に出動した。

平成三十年七月豪雨では、器材隊長鑑塚二佐以下二十八名が派遣され、東方施設群(第五施設群長)に配属された。

岡山県倉敷市真備町において、水害により発生した災害廃棄物処理作業を実施した。連日、三十五度を越える猛暑の中、全隊員は黙々と任務を遂行して地域の国道沿いは元の姿を取り戻した。

また、北海道胆振東部を震源とした地震では、発生当日の九月六日及び翌七日に器材隊から架橋中隊長青木一尉以下二十八名が派遣され、東方施設支援隊(第四施設群長)に配属された。

北海道勇払郡厚真町富里地区及び幌ダム付近道路において、流出した土砂の撤去に従事した。

両派遣共に、地域の復興と安定に寄与し、任務を完了した。

第301ダンプ車両中隊



災害廃棄物の運搬

七月十七日から八月三日までの間、平成三十年七月豪雨に伴う災害派遣に鈴木二曹以下十八名が参加し、岡山県真備市にて災害派遣活動を実施した。



登頂した大久保2曹以下4名

八月二十四日、山梨県三ツ峠山において、中隊は山地機動訓練を実施した。特別勤務、入校者等を除く全員が参加し全員が登頂に成功した。

320基地通信中隊 古河派遣隊



訓練に向かう隊員を激励

七月九日から十二日及び八月二十七日から三十日の二回にわたって群・大隊訓練が行われた。特に八月の群・大隊訓練は方面訓練検閲に向けた最後の訓練ということもあり、過去の訓練からの変更事項やそれを受けての是正事項等を反映させ、各人が積極的に状況に入り、実りのある訓練となった。



施設点検を行う花田3曹

八月一日、同中隊の木更津派遣隊からの配置換えにより、古河派遣隊へ花田三曹が着隊した。

曹友会



試合



健闘する隊員

九月二日、中央運動公園総合体育館において、古河市が主催する「第三回古河市綱引きフェスティバル」が行われた。

第102施設直接支援大隊



格闘集合訓練

七月八日から二十日までの間、座間駐屯地において、第一直接支援中隊長を担任官として、第一〇二施設直接支援大隊格闘集合訓練を実施した。



履修前教育

八月十九日から三十一日までの間、東部方面後方支援隊、陸上自衛隊体育学校及び武器教導隊の陸曹候補生課程履修予定者二十七名に対し、第二直接支援中隊長を教育担任官として教官以下十一名の要員をもって履修前教育を実施し、陸曹としての必要な資質を養うとともに、必要な識能を充実、向上させた。

第337高射中隊



襷を繋ぐ岩崎2曹



力走する西野3曹

八月五日、中隊は第四十三回秩父宮記念富士登山駅伝競走大会に参加した。

第341会計隊



新配置隊員2名

九月九日付で、石川亜輝二士(左)と齊藤夏菜二士(右)が着隊した。今後は会計隊員として古河駐屯地に早く慣れ、会計隊の戦力となるよう育てていく。



訓練の様子

九月二十五日から二十六日の間、勝田演習場において集中野外訓練を実施した。